

特集  
生活者から見る  
「スマート」  
その3

# 新しいワーキングスタイル

## クラウドワークス

Crowdworks Inc.

### ネットでやりとりされる個人のスキルと時間

「ちょっと時間ができたから、新しい仕事をしよう」「自信がついてきたから仕事を増やそう!」

毎日、業務に追われている人にとって、一度は言ってみたい台詞ではないだろうか。しかし、クラウドソーシングなら、それは当たり前だ。いつ、どんな仕事をどのくらいやるか? 決めるのは、どんな場合でも自分なのだ。クラウドソーシングとは、インター

ネットの向こう側にいる不特定多数の人々(クラウド⇨群衆)に業務を委託(アウトソーシング)すること。仕事を発注する企業から見れば、アルバイトやパート、派遣に代わる新たな雇用形態になり、受注する個人から見れば、インターネットを介すことで、企業に所属しなくても継続的に仕事を行える仕組みとなる(Chart参照)。

クラウドソーシング・サービスで日本最大級の㈱クラウドワークスを見ると、すぐにそれが単なる仕事の紹介や募集にとどまらないものであることに気づく。同社の吉田浩一郎代表取締役

近年、企業がインターネットを介して

不特定多数の人に業務を委託する

「クラウドソーシング」が注目されている。

業務を受託する個人に対し場所や時間にとらわれない

仕事を可能にするクラウドソーシングは、

私たちの働き方や生活をどのように変えていくのだろうか?

サービスを提供するクラウドワークスの代表吉田社長と、

同社に登録する働き手の方にお話をうかがった。取材・執筆/脇坂敦史

社長兼CEOは、それを「ネットオークションのように、個人のスキルや時間がやりとりされている」と表現する。「誰がどんな仕事をどのくらいやり、どんな評価を受けてきたのか? 個人がネット上に蓄積してきた信用データがあるからこそ、これまで難しかった「企業に所属していない個人」にも仕事を任せられるんです」

### クラウドソーシングの利点と課題

クラウドソーシングなら、65歳で定年退職しても「ただの人」になること

はない。就職先という会社の「肩書き」は失っても、自分のスキルや経験がびつしりと書かれた「履歴書」が、ネット上にあるからだ。

クラウドワークスでiPhoneアプリ開発の仕事などを受注する川崎市のエンジニア、turntableさん(仮名)もそんな「退職後フリーランス」のひとり。「クライアントとの関係がオープンで、仕事のプロセスもウェブ上で目に見えるのがよい。九州や大阪のクライアントともお仕事ができました。まるで専属の営業マンがいてくれるようなもの」と、そのメリットを強調する。ク

ラウドソーシングは「会社に代わるインフラ」として働き手を支えていることがわかる。

子育てや介護でフルタイムでの仕事はできないけれど、という主婦にも利用者が多い。8歳の娘を育てるEidowerさん(仮名)は、「よい点は、都合のいい時間に作業ができる」とことごといい、出産前のスキルを生かしてデザインの仕事を受注している。とはいえ、「なかには単価の低い仕事もあります」と、より安定した仕事を望む本音ものぞかせる。2歳の娘を育てる佐々木あおいさん(仮名)は、育児の「隙間時間」でできる仕事を探していた。「金銭面のトラブルでも、親身な対応をしてもらえた。クラウドワークスが間に入ってくると、顔の見えない相手とも安心して仕事ができます」

クラウドワークスの利用企業は、現在10万社以上。登録するユーザー数は73万人を超える。クラウドソーシングの市場も、215億円(2013年)から1820億円(2018年)に成長すると見込まれる。

しかし、報酬を含め、バラ色の話ばかりではない。企業がクラウドソーシングに求めるものは、多様な人材とダイレクトに仕事ができることだけでなく、業務のスリム化やコストダウンもある。また働き手の社会保障制度の確立や孤立化の防止、トラブル対応の仕組みづくりなど、解決していくべき課

題も多い。

吉田さんも、クラウドソーシングが「もたざる経営へ」「正規雇用から非正規雇用へ」という流れをくむものであることは否定しない。「社内でもつ、月貸しで借りる、使った分だけ払う。人もモノも、そういう使い分けが進んでいます。正社員であれ、派遣であれ、クラウドソーシングであれ、働き手としての個人は、より主体的な選択が求められる時代だと思います」

### 「働く」を通してつながる新たなコミュニティ

その選択とは、たとえばどんなものになるのだろうか?

「とりわけ3・11後の流れですが、働き方の価値観が変わったと感じます。それは、将来のために我慢して働くことへの疑問です。今を生きるといふことが、よりフォーカスされている。いざというとき、家族のそばにいたい。たとえ収入は少なくても故郷で暮らしたい。将来のためではなく今、納得のできる生活がしたい。クラウドソーシングによって時間と場所にとらわれずに働くことができれば、それが可能になる」と吉田さんは語る。どのような生活をするのか、ということを主体的に考える時代が到来するのだ。クラウドソーシング内で仕事が完結

すれば、都心や首都圏に住むことの優位性はなくなる。住む場所も自由に選べるようになる。実際、クラウドワークスに登録し、業務を受注している約9割は東京以外に在住している。ほかにも、通勤に不自由を感じている障がい者、家族の事情による海外在住者など、光を当てていくべき潜在的なパワーは大きい。

クラウドソーシングは、新しいコミュニティになる。吉田さんは強調する。それは地域を主とする「地縁」や会社を主とする「社縁」ではなく、働くという行為を通してつながるコミュニティだ。だから、働く人にとって不可欠なキャリアアップに関する情報も積極的に提供するし、企業や働き手がさまざまな形で助け合う「互助」の仕組みも整備していくつもりだという。「お金が得られるだけでない、気持ちやつながりも感じられるようなプラットフォームを目指しています。スマート時代においても効率重視、合理主義だけじゃないものを提供したい」

解決すべき課題はあるものの、クラウドソーシングが浸透することにより、多様な働き方が実現し、個人がつながる社会——業種やスキルだけでなく、夢や志を共有する社会へと進んでいくのではないだろうか。新しいワーキングスタイルが、新しい生活を生み、そして新しい社会を実現していく。そんな未来がくるかもしれない。

Chart

### クラウドソーシングの仕組み

